

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.80



2018 年 11 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 秋季講演会・交流会開催・・・・・・・・・・・・・・・・	2
千葉ジェッツふなばしクラブ代表 島田慎二氏 講演 秋の交流会を開催	
○ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表WC二次予選で連勝・・・・・・・・	1 1
ワールドカップ二次予選第5・第6ウィンドウに臨む	
○ 「AKATSUKI FIVE」女子日本代表WC本戦で中国に惜敗・・・・・・・・	1 4
ワールドカップ本戦出場もベスト8ならず	
○ 天皇杯・皇后杯 2次ラウンド組合せ発表・・・・・・・・	1 9
全日本バスケットボール選手権大会 2019	
○ 1976 モントリオールオリンピック（その1）・・・・・・・・歴史部・・	2 4
出場男子オリンピックの座談会	
○ 世田谷区中学生初心者向けクリニック・・・・・・・・総務部・普及部・・	3 0
○ 先人の軌跡 薬師寺尊正・・・・・・・・・・普及部・・	3 2
○ 会員だより	
アジアのバスケットボール好きな仲間たち・・・・・・・・鈴木 承二・・	3 4
スポーツと障がいのある人達・・・・・・・・上谷 富彦・・	3 6
○ Bリーグレギュラーシーズン開幕・・・・・・・・	3 8
○ Wリーグ創立20周年を迎えシーズン開幕・・・・・・・・	4 0
○ 事務局だより・・・・・・・・	4 2
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・	4 3

秋季講演会・交流会開催

千葉ジェッツふなばしクラブ代表 島田 慎二 氏 講演

[編集部]

恒例の秋季講演会と交流会が、11月16日、御茶ノ水池坊東京会館で開催された。講師には、Bリーグにおいて最多観客動員数を誇るクラブ、「千葉ジェッツふなばし」の運営をつかさどる千葉ジェッツふなばし代表取締役社長の島田慎二氏を迎え、多数の会員と、聴講を希望するバスケットボール関係者とで、昨年に続いて会場は満員となった。

講師を引き受けられた島田さんは、かつて千葉ジェッツの運営が危機に瀕していた頃、同クラブのオーナーから依頼されて運営を引き受けられ、7年間にわたってクラブの改革に取り組み、2017～2018シーズンにおいて千葉ジェッツを、成績、観客動員、収入面でBリーグトップに位置するクラブに変身させた。

島田慎二氏プロフィール



講演する島田代表

1970年	新潟県出身 48歳
1992年	日本大学卒業後旅行会社勤務
1995年	海外旅行を扱う旅行会社設立し経営者とし活躍を始める
2010年	コンサルティング会社リカオン設立
2012年	千葉ジェッツ（現千葉ジェッツふなばし）代表取締役就任
2017年	Bリーグ副理事長（バイスチェアマン）
2018年	同職退任 一般社団法人日本トップリーグ連携機構理事就任

著書 「千葉ジェッツの奇跡」「オフィスのごみを拾わないといけない理由をあなたは部下にちゃんと説明できるか」 他

「千葉ジェッツの奇跡」 講演概要

本日は講師としてお招きいただき有難うございます。私は元々バスケットボール界の人間ではなく、バスケットボールのことについては、皆さんの方が詳しいと思いますので、本日はバスケットボールそのものより、ビジネスとしてのお話をさせていただきたいと思います。

バスケットボールのトップリーグには多々歴史もあるかと思いますが、バスケットボールをスポーツビジネスの観点から考えますと、バスケットを知らない人間の方が、プロとして純粹に取り組みやすいのではないかと思います。

2011年、縁あって千葉ジェッツのオーナーから球団の経営について相談され、クラブの状況を把握したときは、まさに倒産寸前の状態でした。これを再建するのはちょっと大変だなと感じましたが、「一定期間のお手伝いなら」ということで、お引き受けしました。

日本の男子バスケットのトップリーグが二つに分裂していた当時、バスケットボール界は一般の方々に理解しづらく、発展性に欠けると感じられていたのです。

bjリーグに所属していた頃、日本協会が天皇杯に出場する枠をbjにも与えましたが、結果として出場すると手を挙げたクラブは千葉を含めて2クラブのみでした。

2013 年よりプロとしての N B L（日本バスケットボールリーグ）が発足するタイミングで千葉ジェッツは b j リーグから N B L へ移籍しましたが、この移籍の決断がクラブ経営改革の発端ともなりました。

やがて国内にプロリーグが 2 つ存在する事は、F I B A からの処分となり改めて統一した B リーグが始まり、クラブ数も徐々に増えて現在では B 1 リーグ 1 8、B 2 リーグ 1 8、B 3 リーグを含めて 4 6 のクラブが全国 3 3 の都道府県で運営され、日本のプロスポーツ界で初めてとなる東・中・西の 3 地区制を敷いています。

バスケットボール競技者人口をみますと、世界的にはバスケットボールが 1 位で 4.5 億人ですが、国内ではサッカーに次いで 6 2 万人と 2 位となっています。

千葉ジェッツは 2011 年から発足し、b j リーグに参入直後から経営破綻寸前の中で戦い、結果的に 1 シーズン目の売上高は、2 億 1 千 5 0 0 万円程度、うちスポンサー売上げが 1 億 4 千 7 8 0 万円ほどで、何とか会社として持ちこたえる事ができました。ただ、集客力に欠け戦力的にも弱く、全く魅力のないチームでした。一番最初に私がコンサルタントとして千葉ジェッツに関わったときの印象は次のようなことでした。

初めて、コンサルとして関わった時の印象

The logo for the Chiba Jets, featuring the team name in a stylized, metallic font with a basketball in the background.

WEAKNESS

- ・東京のベットタウンで郷土愛が薄い
- ・バスケ協会との協力体制が薄い
- ・チームが弱い
- ・人気がない
- ・運営資金が少ない

STRENGTH

- ・人口が多い
- ・バスケの競技人口が多い
- ・資金力のあるベンチャー企業が多い

The logos for the National Basketball League (NBL) and the B League. The NBL logo is a red shield with a basketball and the letters 'NBL'. The B League logo is a stylized 'B' with a basketball and the word 'league'.

WEAKNESS

- ・2リーグあることで発展を阻害している
- ・人気がない
- ・スター選手が少ない
- ・メディア露出が少ない

STRENGTH

- ・競技としては面白く、潜在価値は高い

この中で最も大きく感じたことは 2 つのリーグが存在する事によるプロバスケット発展の阻害でした。

しかし、良い面としては、かつて私はサッカーをやっていましたが、初めてバスケを観戦した際には競技として非常に面白いと思いましたし、千葉ジェッツの本拠地も悪い条件ばかりではないと判断いたしました。

再建にあたっての経営戦略とマネジメントについて少しお話をさせていただきます。

まず、クラブも企業である以上、その経営には理念がなければならず、またクラブが活動するにはその源となる活動理念が必要と考え下記のような経営理念と活動理念を策定しました。

経営理念 千葉ジェッツを取り巻く全ての人たちとハッピーになる

活動理念 ファン・パートナー・ボランティア・地域・取引業者・株主・フライトクルー・選手・そして、スタッフなど、全ての人たちと共にチームを盛り上げ、サービスを創造し、感動を味わい、夢を見ることのできる運営会社を目指します。
私たち、そして千葉ジェッツは理念の実現に向けて各ミッションを指針に行動します。

上記の各ミッションは以下の13ヶ条を制定しました。

1. ファンの皆様にとって身近で愛着のある存在になります。
2. ファンの皆様の声に真摯に耳を傾けます。
3. ファンの皆様と喜び、感動し、一体感を共に味わうことを大切にします。
4. パートナーの皆様の協賛価値とともに向上させます。
5. ボランティアの皆様・フライトクルーと共に試合興行、イベントなどを創り上げていくことを忘れません。
6. 地域の皆様の誇れる存在になります。
7. 子供たちの夢見る舞台を継続的に提供していきます。
8. プロスポーツチームだからこそできる社会貢献を果たします。
9. 地域を盛り上げるために積極的にイベントに参加します。
10. 共にサービスを提供する取引業者との絆を深めます。
11. 選手はチームワークを大切に、愛され、そして勝てるチームになります。
12. スタッフは一致団結し、働き甲斐のある職場環境を皆で創ります。
13. スタッフ・株主が成果に対するリターンを享受できる組織になります。

こうした経営理念を作る事でスタッフが一丸となり、ビジネスとしての成功を引き寄せました。また、バスケットボールに携わる仕事でも生活していく事ができるという達成感を味わえたと思います。

千葉ジェッツではチーム理念も制定しています。チーム理念は、千葉ジェッツが目指すバスケットボールスタイルを明確に示すことと、骨太のチームを創ることが目的です。



千葉ジェッツ チーム理念

※千葉ジェッツ選手・スタッフはこの理念に対する共通認識を持たなければならない

- チームは勝利に拘り、常に「優勝」を目指す
- ブースターが誇れるチームになる

千葉ジェッツのバスケスタイル

「アグレッシブなディフェンスから走る」

千葉ジェッツ チームビジョン



勝利のために

1. 勝つことが最高の達成感であることを感じなくてはならない
2. 現状に満足することなく常に成長意欲を持ち続けなければならない
3. 献身的でなければならない
4. ハードワーカーでなければならない
5. 協働的でなければならない
6. チームとして戦わなくてはならない



スタンス

1. 多くのサポートの上にプロとして存在できていることを強く感じなくてはならない
2. 勝利のために最後まであきらめず必死に戦う姿勢を示さなければならない
3. 内に秘めるのではなく、戦う姿勢、エナジーを表現しなければならない
4. 思っていることを言葉にし、ケミストリーを高めることに積極的でなければならない
5. 言葉にすることは責任が発生すること。言葉にしないことは、無責任。言葉にし責任を果たさなければならない



練習

1. 練習で行っていることしか試合ではできないことを肝に銘じなければならない
2. 試合のための練習であり、試合でハードワークするためには練習からハードワークしなければならない
3. 相手や状況に左右されない勝つための自己コントロール可能なことは全てやらなければならない
4. 練習の中で勝つためのポジティブな習慣を身に着けなければならない
5. 練習はすべて試合に勝つためで行なければならない



自信

1. 勝負どころで勝ち切るには、メンタル勝負。過去よりも練習の中で課題をクリアすることで勝利への自信をつけなければならない
2. 当たり負けしない、怪我をしない身体をつくらなければならない。怪我をして離脱することはチームに迷惑をかけるという強い意識が必要である
3. 己に足りないものは克服する努力をしなければならない



目標設定

1. チーム目標と個人目標はリンクしていなければならない
2. チームが勝つために自分はどうあるべきで、何か足りないから、何をするというプロセス思考をしなければならない

以上のようなチーム理念に基づいたバスケットボールを展開してくれるようなヘッドコーチを探し、その候補者の中から現在のコーチも選任しました。

バスケットボールの試合は勿論勝つことも重要ですが、一方では面白くないとだめです。見に来た観客がまた見たいと思わせるようなプレーが要求されますし、ファンが喜ぶゲーム展開がなければお客さんは足を運んでくれません。そのためには良い選手がいつも個々にフィットしなければなりません。

弱小球団の頃はよい選手を獲得することもままありませんでしたが、最近では補強もできるようになりチームの魅力は増していると思います。

次にクラブのブランディングについて述べたいと思います。

これまでバスケットボール界ではプロの経験が浅かったせいか、バスケットで金を稼ぐということが得手ではなかったようです。そこでこれまでのバスケット界の常識にとらわれない、挑戦的なクラブとしてのブランディングが必要と考えました。

千葉ジェッツは設立当時、クラブの売りが全くなかったため、補強も上手くいかず観客

もまばら、成績も振るわずに低迷していたのですが、他のクラブもずば抜けているところはありませんでした。そこで他のクラブとは違うという、差別化を図ることを行いました。

NBLが発足し、bjリーグを抜け出すクラブがなかったとき、千葉ジェッツがいち早くbjリーグからNBLへ移籍したのもその一環で、クラブのキャラクター化を狙ったものです。その結果、当クラブは、実業団勢が多いNBLで、業界にチャレンジャー的なイメージを植え付けることができました。

そして、何より最も重要なことが資金集めです。会社ですから資金がなければ潰れてしまいます。設立当初から千葉ジェッツは資金難にあえいでいて、銀行からの融資もうまくいかず、スポンサーも少なくクラブ宣伝や選手年俸もままなりませんでした。

首都圏にある事からメディアの露出は期待できない、他の娯楽やスポーツが多い事で、短期的に「おらが街のチーム」になるのは困難と考え、はじめに千葉という利点を生かしたスポンサー集めに注力しました。たまたま千葉県は経営力があって資金力もあるベンチャー企業が多いことに注目し、スポンサー集めに生き残りをかけたと言っても過言ではありません。

スポンサーを急増することの戦略としては多々ありましたが、一つの例としてこんなことをアピールしました。NBLにおいては相当数のクラブが大企業のバックアップで運営されていましたが、それに対する対抗軸を前面に押し出しました。

日本でトヨタと言えば誰もが知っている大企業ですが、バスケット界でそのトヨタを打倒することを掲げたのです。つまり大企業に立ち向かうチャレンジャーとして、ローカル企業のチカラを集結して巨大企業を倒すという夢に共感を生み出し、戦うそのクラブへの投資を促す戦略です。

bjリーグに所属していた時の全選手のサラリーキャップが6800万円のころ、NBLのサラリーキャップは1億5千万円でした。その差は約8000万円ですが、ベンチャー企業の説得にこれを使い、たったの8000万円で世界的規模のトヨタを倒すことができるので夢に乗って欲しいと支援要請をしました。結果的にスポンサー売り上げは2倍近くに増えました。

こうしてある程度の資金集め戦略が実ると、それに応えられるようなチーム力が必須となるのは当たり前ですので、そこではチーム力の強化戦略も進めました。資金を集めて魅力的なチームを結成して、面白い試合をする事で話題になり、さらに集客活動を積極的に行う事で観客が集まり、その観客がリピートしてくれて集客率は上昇し、それによって地域での存在感が高まり、更なるスポンサーを生み出す好循環が生まれるのです。

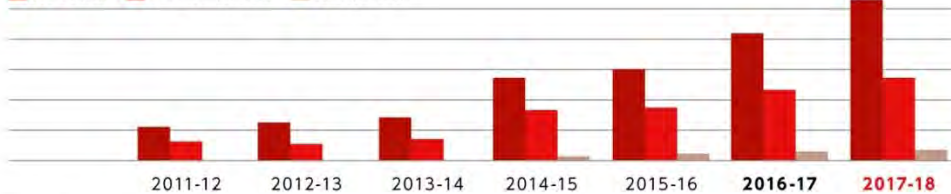
私は、バスケットボールというスポーツにおいて、勝つことに越したことはないですが、ずっと勝ち続ける事は不可能なので、観ていて面白いという印象を与えなければ集客リピートUPはないと思っています。試合会場では常にお客さんが喜ぶことを前面に出した上で試合に勝つ、つまりお客さんの満足度を増せばそれらの口コミによってファンがさらに増えるという最大の宣伝に繋がります。最近千葉県のバスケットボール人口は増加しているそうです。

このようにして再建に取り組んだ結果、昨シーズンにおいて1試合の平均集客数が5000人を上回りBリーグでトップの観客動員数を獲得し、売上げについてもトップになりました。再建を成し遂げるには、負け癖を払拭し、経営理念に基いた行動をすることによって社員に結果を出させて自信やプライドを生ませ、組織へのコミットも常に怠らなく行うのが重要で、それが結果として強い組織が形成されます。

千葉ジェッツの実績

7期連続
黒字へ

■売上高(千円) ■スポンサー売上(千円) ■経常利益(千円)



売上高(千円)	215,499	233,878	251,892	378,955	601,771	920,000	1,427,040
スポンサー売上(千円)	147,822	127,324	151,453	291,675	347,379	500,000	663,368
経常利益(千円)	5,608	794	1,711	29,298	32,452	50,000	90,000
平均観客動員数(人)	1,143	1,248	1,432	1,909	3,574	4,503	5,196
スポンサー数(社)	109	180	246	261	278	306	314
所属リーグ	B.LEAGUE	B.LEAGUE	NBL	NBL	NBL	B.LEAGUE	

平均集客数が5000人を超えた今、アリーナのキャパシティを考えると、1試合における更なる集客数のUPはできません。ですので、地域への愛着心をさらに育てていこうと考えております。千葉ジェッツの考える「地域愛着」というのは

例えば、サーフィンがしたいから湘南地方に住んでみたいとか、一人暮らしするならコンビニが近くに欲しいとか、それらと同等に千葉ジェッツがあるから船橋に住みたいという、クラブへの愛着を生んで頂けることを目指したいのです。

これまで主として再建のプロセスについて述べてまいりましたが、それらを実行に移して結果を出すという戦術について少しお話ししたいと思います。

プロである以上、経営強化のために組織強化は必須ですが、理念だけを掲げてでもそれらが実行されなければ絵に描いた餅になってしまいます。組織強化のために人事マネジメント強化は必須で、社員個々の成長なくして組織の成長はなく、強化のためには管理の強化も求められます。

私は6年間にわたり社長自ら毎週スタッフとのミーティングに出席し、その強化に取り組んできました。チーム方針の徹底、業務遂行の徹底など細かいところまで介入し、バスケットボール・ビジネス化のプロとして全ての目標を短時間で達成するよう徹底した意識改革を行いました。

そして社員全員がそれぞれの持ち場で目標を達成した結果については、数字で示し当然のことながらそれらの対価についても配分しました。スポーツといえどもビジネスマンとして生産性をUPし結果を出さなければ、生きていけないことを明確にするのは当たり前で、プロマインド教育も大事なことです。

プロマインド教育 ビジネスマンはプロフェッショナルであること 一挙一動が生産性向上につながる＝質の向上	
挨拶・御礼	全てにおける基本姿勢・常識感の助成
業者からの接待禁止	なあなあ・コストUP・クオリティ担保
お土産の全員共有	役得・不公平感・勘違いを正す
毎朝15分の全員清掃	謙虚さの助成
整理整頓(含むデジタル)	業務環境の整理、仕事場と頭の中は一緒
メールスピード	リアクションは相手目線
時間管理	業務中の携帯・喫煙の禁止
NO残業	時間内に終わらせる意識・段取り
身だしなみの徹底	清潔感・ビジネスマンとしての意識徹底

プロセス管理とバックアップ ■ 従業員全員が結果を出すために、各上長がバックアップ ■ 「必ず達成できる」と鼓舞し、結果をださせ、自信とプライドを育てる ■ とにかく「スピード」!!!	
週次定例	計画に対する進捗・数字を管理し着実に推進する ● 毎週火曜日に1時間実施 ● KPIの進捗確認を実施
週次面談	個々人の目標計画に対する進捗・週で出す成果・作業を確認 ● 個々人の目標計画に対する進捗・週で出す成果・作業を確認 ● 進捗確認・課題などに対して一緒に考える、指示を与える。
日報	課題解決と意思決定のスピードを何より重視し成果を生む ● 全社員が毎日サイボウズで経営者とマネジャーに報告 ● 1人1人に毎日コメントを返す
まず、向き合うのはスタッフであり、外部の人脈は後からついてくるもの	

最後に私の経営哲学についてお話をさせていただきます。これまでも使ってきたプロという言葉がありますが、経営者もプロでなければならないと思っています。ただ仕事をするのはではなく、目標を設定しそれを達成するための戦略と戦術をたて、そのプロセスを徹底して管理することによって労働生産性を向上させる。つまり経営理念の実現こそが最大のミッションなのです。

経営理念の実現に重要な「桶論」という考えがあります。木製の桶を連想して下さい。桶は多数の木板できていて、そこへ貯められる水の体積量が会社の力と考えた時に木板が一枚でも途中で壊れると水は満杯まで貯まる事はありません。企業にとって全体がしっかりしていれば問題ないのですが、社員が一人でも落ちこぼれると全体として力が落ちるという理論です。

クラブ経営理念の実現は、スタッフ、選手、スポンサー、ファン、観客など、どれ一つが欠けても達成できないのです。

天皇杯で現在 2 連覇できているのも、経営力によって魅力的なチームを作り出した結果だと思います。プロである以上、設定したゴールに向かって何が何でもたどり着くという迫力が染み出て実現に至ったのです。

これからの目標としては、クラブ売上高 30 億円とチームの価値向上を目指してまいります。

千葉ジェッツふなばしは発足 8 年目を迎えますが、100 年後にもこのクラブが健全であることを祈っております。



会場満席の船橋アリーナ



盛況な講演会場

秋の交流会を開催

講演会終了後、会場を移して開催された交流会には、多数の方々が参加し、バスケットボールの情報交換や講演に対する感想などを取り交わし、和やかな交流会となった。

大野会長挨拶



本日は多数の方々にお集まりいただき有難うございます。先ほど行われた千葉ジェッツ島田さんの講演は、単にバスケットボールだけではなく、私たちにも役立つ素晴らしい内容であったと思います。

私たち振興会も本日の講演から学び取れることもあったのではないかと考えております。これからも皆で協力して良い環境を整えて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

席上、渡邊理事長から今年度から就任された、今井事務局長の紹介があった。

今井事務局長は、長年実業団連盟の中で総務の仕事を担当されてきたベテランで、前佐々木事務局長の後任として事務局業務を担当する。



「AKATSUKI FIVE」 男子日本代表WC二次予選で連勝

ワールドカップ二次予選第5・第6ウィンドウに臨む

[編集部]

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 で二次予選（第2ラウンド）に進出の日本は、一次予選第3ウィンドウで活躍のファジーカス ニック選手が膝の手術で不参加となったが、代わりにブラウン アイラ選手が入った。更にアメリカ留学中の八村塁選手に、NBAメンフィス・グリズリーズとツーウェー契約した渡辺雄太選手が加わって、リバウンドと得点力の増強が図られた。

9月11日に発表された二次予選第4ウィンドウの日本代表選手12名は下記の通りであり、この2試合のエントリーに変更はない。スタッフは従来と同一のメンバーである。

<「AKATSUKI FIVE」選手>

* 年齢所属は2018年9月11日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			cm	kg	歳	
2	富樫 勇樹	P G	167	65	25	千葉ジェッツ
3	辻 直人	S G	185	82	29	川崎ブレイブサンダース
6	比江島 慎	S G	190	88	28	ブリスベン ブレッツ
7	篠山 竜青	P G	178	78	30	川崎ブレイブサンダース
8	太田 敦也	C	206	112	34	三遠ネオフェニックス
12	渡辺 雄太	S F	206	93	23	メンフィス グリズリーズ
15	竹内 譲次	P F	207	98	33	アルバルク東京
18	馬場 雄大	S F	198	90	22	アルバルク東京
23	八村 塁	P F	203	102	20	ゴンザガ大学
24	田中 大貴	S G	192	93	27	アルバルク東京
35	ブラウン アイラ	P F	193	105	36	琉球ゴールデンキングス
88	張本 天傑	S F	197	102	26	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平 均		193.5	92.3	27.8	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

FIBA ワールドカップ 2019 二次予選（第2ラウンド）

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 二次予選は一次予選に続く第4～第6ウィンドウがあり、グループB上位3チームはグループD上位3チームと下記のようにグループFを形成して対戦する。他のグループA上位3チームとグループC上位3チームとはグループEを形成する。各グループは、一次予選の成績をそのまま引き継ぎ、二次予選で未対戦チーム同士が対戦する。グループE・Fそれぞれの上位3チームは無条件に決勝戦に進める。

二次予選第4ウィンドウで日本は、米国から参加した渡辺選手、八村選手の活躍で、カザフスタンと世界ランク24位の強豪イランに連戦して快勝した。

第4 ウィンドウ：日本の成績

[アウェーゲーム]

9月13日 アルマトイ

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
カザフスタン	20	14	16	20	70
日本	28	21	21	15	85

日本は、ゲームの第1クォーター開始直後にシュートが決まらず相手に8点の差をつけられたが、厳しいゾーンディフェンスで相手を抑え、4分経過頃から#12 渡辺の活躍による連続得点で同点に持ち込む。その後はリードしつつも追いつかれる様相であった。

以後の日本は、第2、第3クォーターとも順調な攻防で、70-50と20点の差をつけ、最後は、相手を70点に抑えて15点のリードで終わった。

日本は、相手チームの長身選手によるリング下プレー及び#6 選手の確実な3ポイントシュートに悩まされたが、#35 ブラウン、#23 八村、#18 馬場のリバウンドと#12 渡辺のシュートブロックにより、相手チームの得点を抑えることができた。個人得点は、#23 八村が24点、#12 渡辺が17点であった。#35 ブラウンは18分強と短時間の出場であったが8リバウンドと9得点の大活躍であった。ただ、#18 馬場のフリースロー2/5はいただけない。#12 渡辺の2/2、#23 八村の8/9を見習ってほしい。

[ホームゲーム]

9月17日 東京

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	16	15	26	13	70
イラン	22	13	8	13	56

日本は、アメリカからの二人に助けられ、得点能力が向上した上、ディフェンスも安定した状況であり、予選突破のためには負けられない一戦である。

第1クォーター開始時、日本は、ディフェンスをゾーンで臨むが、疲れもあったか、チーム全体が硬くなっていた感があった。イランは、日本のゾーンに対してリング下で確実に、かつ、中で無理せず外郭から得点を重ねた。日本は、相手に食らいついて残り3分ほどで何とか13-13に追いつき、ディフェンスをマンツーマンに変えた。その後、日本は、得点が伸びず、16-22の6点ビハインドで終わった。

第2クォーターの開始直後に日本は10点差をつけられたが、その後のイランは日本の厳しいマンツーマンによりシュートが決まらない。一方の日本は、途中で交代した#12 渡辺の活躍があり、残り3分半には28-28の同点にまで持ち込んだが、激しいディフェンスで互いにシュートが決まらず、結局、前半を31-35の4点ビハインドで終えた。

第3クォーター、日本は、外郭は勿論、リング下も厳しいマンツーマンでイランを抑える一方、開始後の1分で#23 八村と#12 渡辺の活躍で35-35の同点とした。以降の日本は、ボールに執着してゲットし速攻も出し、57-43と14点のリードとした。

第4クォーターは、動きが鈍く、#23 八村の2点シュート3本、#12 渡辺のフリースロー4点と2ポイントシュート1本、#18 馬場のフリースロー1点のみであった。イランも

3ポイントシュートこそ2本決めたが、同じ13得点であった。

個人得点は、#23 八村が25点、#12 渡辺が18点、チームで43.1%であった。リバウンドでは、#15 竹内、#23 八村、#35 ブラウンが中心にイランの44個に対して38個と奮闘し勝利に貢献した。しかし、3ポイントシュートは、11本中、#35 ブラウン、#2 富樫の各1本（第3クォーター）でチーム18.2%と残念な結果であった。

また、フリースロー成功率がチームで66.7%である。日本代表選手の自覚を促したい。因みに、フリースローはカザフスタン戦で82.6%と好成績であった。大事な場面での失点は痛い。疲れで低調であったかもしれないが、今後は頑張してほしい。

グループF 第4ウィンドウまでの成績 (上段ホーム・下段アウェー)

順位	チーム	AUS	PHI	JPN	IRI	KAZ	QAT	一次予選 引き継ぎ	勝	負
1	オーストラリア		○ 84 - 68 ○ 89 - 53	○ 82 - 58 ● 78 - 79		○ 94 - 41	○ 95 - 43	○ ○	7	1
3	フィリピン	● 53 - 89 ● 68 - 84		○ 89 - 84 ○ 77 - 71	● 73 - 81		○ 92 - 81	○ ○	5	3
4	日本	○ 79 - 78 ● 58 - 82	● 71 - 77 ● 84 - 89		○ 70 - 56	○ 85 - 70		● ○	4	4
2	イラン		○ 81 - 73	● 56 - 70		○ 88 - 56 ○ 75 - 54	○ 65 - 39 ○ 77 - 75	○ ●	6	2
5	カザフスタン	● 41 - 94		● 70 - 85	● 54 - 75 ● 56 - 88		○ 96 - 63 ○ 82 - 70	○ ●	3	5
6	カタール	● 43 - 95	● 81 - 92		● 75 - 77 ● 39 - 65	● 70 - 82 ● 63 - 96		○ ○	2	6
A4	タイペイ	● 66 - 104 ● 68 - 88	● 71 - 93 ● 83 - 90	● 68 - 108 ○ 70 - 69	○ 74 - 66 ● 53 - 83	○ 64 - 50 ● 76 - 82	● 66 - 77 ● 79 - 84		イラク	C4
		勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点			
		7 476 714	5 644 635	4 590 624	6 494 591	3 615 531	2 652 532			

日本（世界ランク48位）の残る二次予選日程

第5ウィンドウ

- [ホーム] 2018年11月30日(金) vs カタール（世界ランク60位）
 [ホーム] 2018年12月3日(月) vs カザフスタン（世界ランク68位）

第6ウィンドウ

- [アウェー] 2019年2月21日(木) vs イラン（世界ランク24位）
 [アウェー] 2019年2月24日(日) vs カタール

中国で2019年8月31日から9月15日まで開催されるワールドカップ本戦に出場するには、グループFの3位までか、4位の場合はグループE・Fそれぞれのチームの成績を比較した上位に入る必要がある。

日本は、フィリピンと同じ勝数の場合、連敗なので4位が避けられまい。何とか勝数を稼ぎたい。4位でグループFに勝つためには得失点差にも留意が必要であろう。

上記日程の間、アメリカバスケット界では、NBAや大学がシーズン開始に向けてのキャンプなどを実施し、プレシーズンを経て本シーズンに突入しているので、選手にとって自己アピールの重要な時期である。渡辺選手、八村選手の参加は期待できまい。

日本代表選手の得点に対する一層の食欲さと厳しいディフェンスへの奮起を期待する。

「AKATSUKI FIVE」女子日本代表WC本戦で中国に惜敗

ワールドカップ本戦出場もベスト8ならず

[編集部]

2018年9月22日から30日（開催日は現地時間）までスペインのテネリフェ島で開催された「FIBA女子バスケットボールワールドカップ2018」には、日本代表選手として下記の12名がエントリされた。

日本は、予選リーグをグループCで3位となって決勝トーナメントに進出したが、初戦でグループD2位の中国に87-81で惜敗して8強に残れなかった。

<「AKATSUKI FIVE」選手>

*年齢・所属は2018年9月21日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			c m	kg	歳	
0	長岡 萌映子	S F	182	75	24	トヨタ自動車アンテロープス
1	藤岡 麻菜美	P G	170	60	24	J X-E N E O S サンフラワーズ
7	水島 沙紀	S G	171	59	27	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田 真希	P F	183	76	29	デンソーアイリス
13	町田 瑠唯	P G	162	57	25	富士通レッドウェーブ
15	本橋 菜子	P G	164	55	24	東京羽田ヴィッキーズ
24	藤高 三佳	S G	176	68	29	トヨタ自動車アンテロープス
30	馬瓜 エブリン	S F	180	79	23	トヨタ自動車アンテロープス
41	根本 葉瑠乃	S G	175	67	23	三菱電機コアラーズ
52	宮澤 夕貴	S F	182	70	25	J X-E N E O S サンフラワーズ
88	赤穂 ひまわり	S G	184	71	20	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	S F	181	72	19	デンソーアイリス
	平 均		175.8	67.4	24.3	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

予選リーグ

日本は、グループCで2勝1敗となり、3チームの得失点差で3位になった。グループで2位、3位のチームは決勝トーナメントでベスト8を狙って戦う。

9月22日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	10	11	27	23	71
スペイン	20	19	22	23	84

世界ランク13位、平均身長176cmの日本は、初戦を世界ランク2位、平均身長183cmのスペインに挑む。

日本は、198 cm、190 cm、180 cmの3枚の長身者にリング下を占拠され、オフェンスではドライブインが無理なうえ、3ポイントシュートも決まらない。相手スペインは、ディフェンスではリング近辺でのシュートと外郭から3ポイントシュートで着実に得点し、第1クォーター、日本はダブルスコアに抑え込まれる。第2クォーターも、日本はスペインのスピードにディフェンスでは追い付けず、オフェンスではマンツーマンディフェンスでスイッチする相手を振り切れず、長身者の長い手にパスもショットも阻まれる始末の苦戦であった。その結果、前半、21－39と18点のビハインドとなった。

後半、平均年齢28歳のスペインがディフェンスをゾーンに変えたためか、早い動きでマークを外す#24 藤高の3ポイントシュートと相手ディフェンスがセットを組む前に#15 本橋がドライブインシュートを決めて日本が追いかける。こうして日本は、後半を互角以上に闘ったが、結局、13点のビハインドで敗れた。

ちなみに、日本とスペインの差は、3ポイントシュートの成功率が6／18で33％に対して8／19で42％、オフェンスリバウンド数が4個に対して14個の大差にある。

身長差には、相手チームのディフェンスをかわしてノーマークを作るスピードが不可欠であることが証明された一戦であった。

9月23日

	Q1	Q2	Q3	Q4	OT1	計
ベルギー	13	19	18	18	7	75
日本	17	18	22	11	9	77

第1クォーター、平均身長180 cmのベルギーに対し、日本は、厳しくディフェンスしてシュートミスを誘うも、自身もシュートを決められず、残り2分半で12－12の同点。その後、ベルギーの甘いマンツーマンディフェンスをついてリード。第2クォーター、ベルギーはゾーンディフェンスを敷く。日本は#99 オコエの3ポイントシュートに続く#52 宮澤、#8 高田の得点で相手を突き放すが、終盤連続得点され3点のリードで終わる。

第3クォーター、点の取り合いから、残り6分でベルギーの3ポイントシュートにより同点となる。その後も点を取り合うが、日本が残り2分から3ポイントシュートを含む連続得点で57－50と7点をリードする。第4クォーター、ベルギーのマンツーマンに対し日本はゾーンディフェンスを敷く。中盤で日本は9点をリードするがその後は190 cmを超える相手プレーヤーに連続シュートを決められ、同点となって延長戦に入る。

延長戦では、開始直後に3ポイントシュートの応酬があったのち、ベルギーがリング下で確実に得点して先行したが、日本は、#52 宮澤の3ポイントシュートと2本のフリースローを決める活躍により、残り1分で1点をリードする。残り15秒、日本はファウルを得た#88 赤穂がフリースローを1本決めて77－75としたのち、タイムアップ直前、相手#5選手の3ポイントシュートを#52 宮澤が果敢にブロックすると共に、このリバウンドを#88 赤穂が確保して2点リードを守り勝利する。

ベルギーは、178 cm #5選手が3ポイントシュート7／11（64％）を含む23点を稼ぐが、チームのフリースロー成功率が60％（6／10）であり、敗因の一つとなった。

日本は、#8 高田が26点、#52 宮澤が21点を得点した。フリースローは#88 赤穂が最後に1本落としたのみで、チームで12／13の92％と好成績であった。

9月25日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	23	20	10	16	69
プエルトリコ	15	13	17	16	61

平均 176 cm と互角な身長のパエルトリコとの対戦で、第 1 クォーターの日本は、残り 4 分を切って 12-11 と追い詰められてから、当たりの強いマンツーマンディフェンスで相手を抑え、8 点のリードで終えた。第 2 クォーター開始で、相手 165 cm #0 選手の連続得点に 27-25 と攻め込まれた。その後の 5 分間、日本は、相手を厳しく抑えたゾーンディフェンスからの速攻と 3 ポイントシュート攻勢で一気に 40-25 と引き離し、前半を 43-28 の 15 点リードで終える。

後半、第 3 クォーター、残り 7 分で 51-32 と 19 点をリードしたが、その後、相手の厳しいマンツーマンディフェンスにシュートが決まらず、残り 5 分で #88 赤穂のレイアップショット 1 本のみ、53-45 の 8 点のリードに終わった。第 4 クォーター、日本は、相手をゾーンディフェンスで抑える一方、相手のゾーンディフェンスをよく攻めて、#30 馬瓜の活躍により残り 4 分で 66-49 とした。その後、相手の 188 cm #24 選手が連続 3 ポイントシュートを決める一方で、日本は相手のマンツーマンディフェンスを攻めあぐみ、#8 高田のレイアップと #1 藤岡のフリースローの得点のみで終わった。

日本は、相手のマンツーマンディフェンスに抑えられ苦戦したが、#52 宮澤が 15 点、#8 高田が 14 点、#30 馬瓜が 11 点を獲得している。相手プエルトリコは、188 cm のシューティングガード #24 選手が 3 ポイントシュート 4/5 を含む 23 点、ポイントガードの #0 選手が 20 点を稼いでいる。

次に、グループ C と、8 強決定戦で相手となったグループ D との結果を表記する。

グループ C

順位	チーム	ベルギー	スペイン	日本	プエルトリコ
	世界ランク	28 位	2 位	13 位	22 位
1	ベルギー		○ 72-63	● 75-77	○ 86-36
2	スペイン	● 63-72		○ 84-71	○ 78-53
3	日本	○ 77-75	● 71-84		○ 69-61
4	プエルトリコ	● 36-86	● 53-78	● 61-69	

グループ D

順位	チーム	USA	中国	セネガル	ラトビア
	世界ランク	1 位	10 位	17 位	26 位
1	USA		○ 100-88	○ 87-67	○ 102-76
2	中国	● 88-100		○ 75-66	○ 64-61
3	セネガル	● 67-87	● 66-75		○ 70-69
4	ラトビア	● 76-102	● 61-64	● 69-70	

日本の決勝トーナメント

日本は、上記したように予選リーグをグループCで3位となって決勝トーナメントに進出し、下記の決勝トーナメント表に示されるように、アジア地域上位3チームが対戦することになった。日本は、FIBA女子アジアカップ2017の準決勝で中国に74-71、決勝でオーストラリアに74-73と接戦を制して金メダルを得ているので、今回も、勝ち抜きたいところであった。

しかし、初戦でグループD2位の中国に87-81で惜敗して8強に残れなかった。

9月26日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
中国	19	27	21	20	87
日本	25	19	13	24	81

平均187cmの長身と平均年齢23歳の若さに溢れる中国に敢然と向かう。

第1クォーター、双方、マンツーマンディフェンス。開始後の5分間、日本は速いパスワークからノーマークで#15本橋が連続3ポイントシュートを決める一方、中国は慎重にパスを回して長身者が着実に得点し、11-11の同点。この後、日本は、速い動きとパス、更に相手の甘いディフェンスについて#30馬瓜の連続得点を含み一気に引き離し、6点をリードする。第2クォーターに入ると日本は、動きとパスワークが鈍くなり、ノーマークが作れずミスショットが増え、4分半の経過で31-31の同点。その後、日本は、2本の3ポイントシュートで6点差をつけるも、中国の速い動きと良いパスワークに加えてドライブインからのリング下プレーにより逆転され、前半、2点のビハインドとなる。

後半、日本は、開始直後に逆転するも同点にされ、以降、長身者による密着ディフェンスに無理なシュートを重ねてミスし、ついにはイージーシュートも落とす始末。逆に、中国はリング下に攻め込んで長身者により着実に得点を重ね、日本は第3クォーター終了で57-67の10点ビハインドとなる。

第4クォーター、日本はボールにプレッシャーを掛ける相手に速いパス回しで攻め込み得点するが、中国も追いかけて点差は縮まらない。日本は、残り3分程から、#99オコエが連続得点しての4点差から#15本橋のレイアップシュートで79-81の2点差に迫る。この後、相手200cm#14選手のレイアップシュートが決まり、日本は79-83。その後、日本は、オールコートプレスに転じたが、リング下でのシュートミスに個人ファウルが続く、相手にフリースローをきっちり決められて79-87。タイムアップで#15本橋のレイアップシュートが決まったが、日本は81-87の6点のビハインドで終わった。

シュート成功率は、前半、両チームとも同等で50%を超えた。通しの中国・日本では、2ポイントシュート26/49 (53.1%)・18/43 (41.9%)、3ポイントシュート9/16 (56.2%)・12/26 (46.2%)、フリースロー8/9 (88.9%)・9/13 (69.2%)である。すべての点で中国が勝っている。特に、今回の日本のフリースロー成功率の低さは問題である。

中国の個人得点は4人が12~16点を挙げている。日本では、#15本橋が25点、#30馬瓜・#50宮澤・#99オコエがそれぞれ12点だが、#99オコエが12分弱の出場時間に確率高く成功させていることが特筆される。

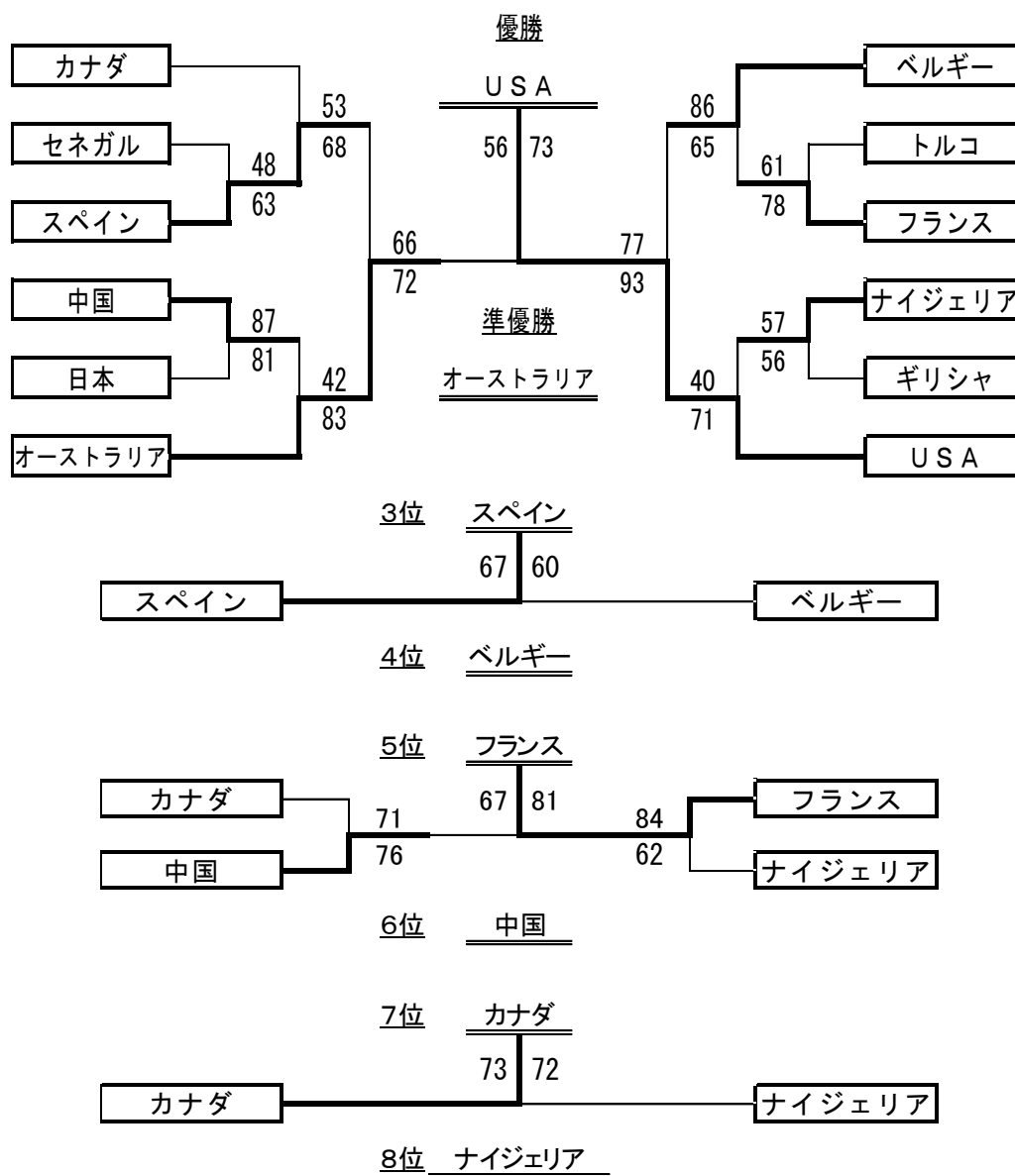
日本には、長身チームに対しても、速い動きとパスワークでノーマークから3ポイントシュートを決め、フリースローを90%以上決めることにより各クォーターで20点、トータルで80点以上を稼ぐ一方、激しく厳しいディフェンスで相手を70点台に抑えるタフさが欲しい。今回の成績にめげず、さらに躍進することを望む。

FIBA 女子ワールドカップ 2018 決勝トーナメントの結果

下記決勝トーナメントの結果で示されるように、優勝は断トツでUSAであり、準優勝にはアジアのオーストラリアが勝ち進んだ。日本がグループCで予選を戦ったスペインは3位、ベルギーは4位であり、8強決定戦で敗れた中国は6位となった。

日本は4位のベルギーに予選で勝利しており、世界の上位に割り込める十分な力を有していると思われる。勝つだけが全てではないというものの、日本チームの得点への更なる食欲さが欲しい。

女子代表選手に対して今後の努力を期待する。



天皇杯・皇后杯 2次ラウンド組合せ発表

全日本バスケットボール選手権大会 2019

[編集部]

毎年、正月に開催される「真の日本一」を決定する全日本バスケットボール選手権大会は、ファイナルラウンドとして1月10日から13日まで、男女各8チームにより埼玉県の「さいたまスーパーアリーナ」で開催される。

このステージに登場する男女各8チームを決定する予選2次ラウンドが、来る12月1日、2日に全国8会場で開催される。

今回は、昨年と異なり、先ず8月に都道府県代表を決定し、その各代表チームにより全日本選手権大会の1次ラウンドとしての予選会が、9月15日から17日にかけて、3エリアで実施された。

1次ラウンド 9月15日～17日

開催都市 アリーナ

東日本大会：宮城県仙台市、元気フィールド仙台・東北学院大学泉キャンパス体育館

中日本大会：岐阜県岐阜市、岐阜メモリアルセンターで愛・ふれ愛ドーム

西日本大会：山口県周南市、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター・メインアリーナ

東日本大会は、北海道から山梨までの都道府県代表15チームを4ブロックに、
中日本大会は、長野から和歌山までの府県代表15チームを4ブロックに、
西日本大会は、鳥取から沖縄までの県代表17チームを5ブロックに、
それぞれ分けてトーナメント形式で実施し、勝者13チームが選別された。
男子、女子それぞれの結果を後ページに掲載して報告する。

2次ラウンド 12月1日・2日

2次ラウンドは、東北から四国までにわたる全国8会場（後述）で開催される。

男子は、1次ラウンド突破の13チームにBリーグ18クラブを加えた31チームを8ブロックに分割したトーナメント形式で争い、それぞれの勝者8チームがファイナルラウンドに進む。

女子は、1次ラウンド突破の13チームにWJBL12チームを加えた26チームを8ブロックに分割したトーナメント形式で争い、それぞれの勝者8チームがファイナルラウンドに進む。

開催地情報及び男子、女子それぞれの組み合わせを後ページに掲載してお知らせする。

1次ラウンド 男子結果

東日本大会			
群馬	ALSOK GUNMA CLUB	81 58	白鷗大学
山梨	山梨学院大学	63 107	JR東日本秋田
山形	YAMAGATA KUBERA	106 122	69 67
栃木	白鷗大学		宮田自動車 北海道
神奈川	東海大学	78 83	鶴田クラブ 青森
東京	黒田電気 Bullet Spirits	104 85	六実レイダース 千葉
福島	福島教員A	88 75	JR東日本秋田ペッカーズ 秋田
宮城	東北学院大学		日立金属ブルドッグス 茨城
			曙ブレーキ工業 埼玉
			ST-IWATE 岩手
中日本大会			
滋賀	太神山	85 115	金沢大学 石川
大阪	大阪学院大学	60 75	新潟経営大学 新潟
京都	京都産業大学	94 76	リントツ 愛知
静岡	常葉大学		長野吉田クラブ 長野
奈良	天理大学	86 65	O55 三重
和歌山	D-ride	67 59	富山大学 富山
岐阜	Gifu Seiryu Heroes	88 65	信和建設(株) 兵庫
福井	北陸高等学校		
西日本大会			
岡山	ファイサズ岡山	87 70	佐賀BALLOONERS 佐賀
島根	HOKURYO-CLUB	78 75	四国電力 香川
宮崎	Magic	81 71	浦上自動車学校 長崎
高知	UNITE		日田協会 大分
愛媛	東レ愛媛	101 88	Beasty 沖縄
広島	広島大学	71 83	徳山大学 山口
福岡	福岡第一高等学校	113 51	東海大九州 熊本
鳥取	T・W・B		EXPLORERS KAGOSHIMA 鹿児島
			徳島クラブ 徳島

1次ラウンド 女子結果

東日本大会			
群馬	関東学園大学	72	89
神奈川	松陰大学	41	79
東京	ミツウロコ	97	49
岩手	岩手大学	56	103
山梨	山梨学院大学	59	63
茨城	筑波大学	60	86
北海道	Thirty Girls	98	46
秋田	秋田銀行	53	82
ミツウロコ			
白鷗大学			
秋田銀行			
山形銀行			
A-BITS			
QUEEN BEE			
白鷗大学			
福島大学			
聖和学園高等学校			
大東文化大学			
山形銀行			
青森			
千葉			
栃木			
福島			
宮城			
埼玉			
山形			
中日本大会			
福井	niko	76	62
奈良	奈良学園大学	57	69
長野	長野大学	61	94
大阪	大阪人間科学大学	47	97
新潟	新潟医療福祉大学	57	71
和歌山	紀陽銀行ハートビーツ	102	71
滋賀	滋賀銀行	33	107
三重	県立四日市商業高等学校	89	54
大阪人間科学大学			
愛知学泉大学			
滋賀銀行			
岐阜女子高等学校			
浜松開誠館高等学校			
OTCくきや			
愛知学泉大学			
京都精華学園高等学校			
Blue Sky			
岐阜女子高等学校			
北陸大学			
静岡			
兵庫			
愛知			
京都			
富山			
岐阜			
石川			
西日本大会			
徳島	JOIN	57	97
熊本	鶴屋百貨店	57	74
山口	日立笠戸	98	60
島根	クリスタルBBC	78	87
鳥取	米子クラブ	72	104
長崎	長崎女子高等学校	118	74
高知	高知中央高等学校	42	117
宮崎	日ノ出ホルモン	66	97
日立笠戸			
日本経済大学			
高知中央高等学校			
今治オレンジ			
OMガス石油SS			
広島大学			
ELEVEN			
明善クラブ			
日本経済大学			
鹿屋体育大学			
藤蔭高等学校			
ひらまつ病院			
今治オレンジブロッサム			
沖縄			
広島			
岡山			
香川			
福岡			
鹿児島			
大分			
佐賀			
愛媛			

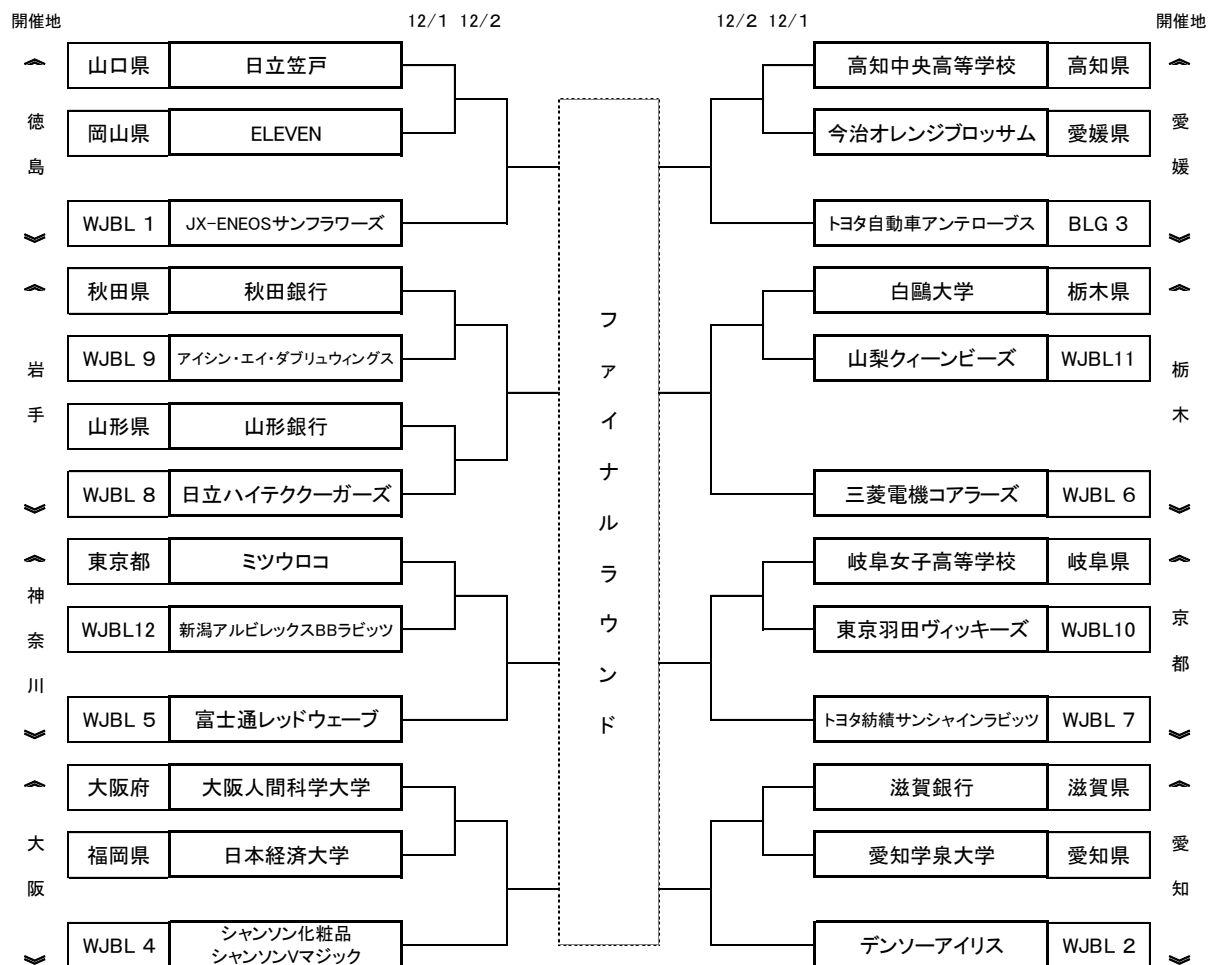
2次ラウンド 開催地 (男子・女子共通)

開催地	都市	アリーナ
岩手	岩手県奥州市	奥州市総合体育館 Zアリーナ
栃木	栃木県宇都宮市	ブレックスアリーナ宇都宮
神奈川	神奈川県平塚市	トッケイセキュリティ平塚総合体育館
愛知	愛知県刈谷市	ウィングアリーナ刈谷
京都	京都府京都市	島津アリーナ京都
大阪	大阪府大阪市	おおきにアリーナ舞洲 (旧 府民共済SUPERアリーナ)
徳島	徳島県鳴門市	鳴門県民体育館 アミノバリューホール
愛媛	愛媛県松山市	愛媛県総合運動公園体育館

2次ラウンド 男子組合せ

開催地	12/1	12/2	12/2	12/1	開催地
神奈川	兵庫県	信和建設(株)			秋田
	BLG16	横浜ビー・コルセアーズ			滋賀
	天皇杯優勝	千葉ジェッツ			リンタツ
	岡山県	ファイサンズ岡山			シーホース三河
	BLG 9	サンロッカーズ渋谷			京都産業大学
福岡県	福岡第一高等学校				レバンガ北海道
BLG 8	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ				天理大学
秋田県	JR東日本 秋田ベッカーズ				京都ハンナリーズ
BLG12	三遠ネオフェニックス				白鷲大学
埼玉県	曙ブレーキ工業				新潟アルビレックスBB
BLG 5	川崎ブレイブサンダース				黒田電気 Bullet Spirits
熊本県	東海大九州				栃木ブレックス
BLG13	大阪エベッサ				ライジングゼファー福岡
佐賀県	佐賀BALLOONERS				富山グラウジーズ
BLG 4	琉球ゴールデンキングス				徳山大学
					アルパルク東京

2次ラウンド 女子組合



2次ラウンド 予想

男子、女子とも、トップリーグ所属のチームが勝ち抜くと思われる。
大学や高校の学生チームも参加するので、それぞれの活躍を期待したい。

ファイナルラウンド 1月10日～13日

開催地 埼玉県さいたま市 さいたまスーパーアリーナ

男子、女子それぞれで、2次ラウンドの勝ち上がり8チームによる勝ち抜き戦。
組合せ（対戦相手）は未定。

1976 年モントリオールオリンピック（その 1）

出場男子オリンピックの座談会

[歴史部]

去る 7 月 17 日、来る 2020 年の東京オリンピック開会式の 2 年前にあたる日に、モントリオールオリンピック男子日本代表チームの監督・選手の皆様にご参集頂き座談会を開催しました。この体験談が、東京オリンピックへ参加される候補選手や本誌プラザ購読者へエール・提言等として、プラザの本紙面を介してお伝えできれば幸甚に思います。

第 21 回オリンピック・モントリオール（成績等の詳細は次号末尾に付記の予定）

バスケットボール開催日：1976 年 7 月 18 日～27 日

バスケットボール男子日本代表チーム主要メンバー

	氏名	当時の所属	座談会出欠
監督	吉田 正彦	日本鋼管	出席
選手	阿部 成章	日本鉱業	出席
	北原 憲彦	明治大学	
	桑田 健秀	日本鋼管	出席
	斎藤 文夫	中央大学	出席
	清水 茂人	中京大学	(逝去)
	千種 信雄	住友金属	出席
	沼田 宏文	松下電器	
	浜口 秀樹	拓殖大学	
	藤本 裕	日本鋼管	(逝去)
	森 哲	住友金属	
	山本 浩二	日本鋼管	(逝去)
	結城 昭二	住友金属	出席・振興会会員

選手名は五十音順

出席者集合写真（後列：同席の振興会会員）



後列左から 上谷、渡辺、大野、黒川、羽佐田、青木、深尾
前列左から 桑田、千種、吉田、結城、阿部、斎藤

座談会 （敬称略）

【大野】

お暑い中お集まりいただきありがとうございました。男子がオリンピックに出場したのは1976年のモントリオールが最後ということで、もう42年も前のことになります。皆様の貴重な経験を紐解きながら、現在、そして2020年の東京オリンピック男子日本代表になれる方々に、様々な提言を頂ければと思っています。今日はよろしくお願いいたします。

【深尾】

40年以上にわたってオリンピックの舞台から遠ざかっている男子日本代表チームですが、今日は1976年のモントリオールオリンピックに出場し、監督を務められた吉田正彦氏、選手として参加した阿部成章氏、千種信雄氏、結城昭二氏、桑田健秀氏、斎藤文夫氏の6名にお集まり頂き、当時の思い出や未来への提言をざっくばらんに語っていただきます。

お話の前に、早逝された藤本裕氏、山本浩二氏、清水茂人氏へ黙とういたします。

＜藤本裕氏、山本浩二氏、清水茂人氏への黙とう＞

それでは吉田監督からお話をお願い致します。

【吉田】



2020年の東京オリンピックの、男子日本代表は開催国枠での出場が未定ですが、アジア地区で上位を勝ち取り参加される事を祈ります。2006年の世界選手権（埼玉県さいたま市）は開催国枠で出場し大敗を喫しており、この時の二の舞だけは演じてほしくないと思っています。

日本の男子バスケットの歴史は、3つの時代に大別されているように感じます。初めてオリンピックに出場した、1936年のベルリン大会からローマ大会までが創成期。1964年の東京からモントリオールまでが、熟成期に入ったところだろうと思います。世代交代して日本協会も東京オリンピックを控えて立て直しを図りました。その原動力は協会の構想、企画、技術的な部分の展望があつてのこと。当時は、吉井四郎先生とヘッドコーチのピート・ニューウエルさんとの二大体制です。そしてモントリオール以降の長きにわたるどんめい低迷期…。モントリオール以降は10回もオリンピックに出られないという事を起因として、日本のスポーツ界全体に、世界的にはメジャーなバスケットの影響力を示すこともできなくなりました。特に、FIBAから「活動資格停止処分」という不名誉なペナルティを受けた2014年以降、川淵三郎さんを中心とする方々に委ねざるを得ない事は、大いに反省せざるを得ません。私は、その原因は今日参集の皆にも大きな責任があったと思う。幸いまだ皆若く元気ですので、2020年に向けてやるべきことを見つけないと感じています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【深尾】

それでは、皆様に当時の思い出話などを含め語っていただければと思います。振興会として、1964年の東京オリンピックの男子と、アテネ、アトランタの女子については過去に座談会を行い、当プラザに掲載しました。

【吉田】

オリンピックとそうでない方は？ 私は、日の丸をつけて結団式を経験したかしないかだと思っています。代々木第二体育館で行われたモントリオールオリンピックの結団式は、

素晴らしいものでした。皇太子ご夫妻（当時）のご臨席を仰ぎ、400 人弱の選手団一人ひとりの名前が呼ばれ、皇太子様から団長、選手団キャプテンへと団旗が手渡され、セレモニーが始まるのです。このセレモニーの前段階には、セレモニー用の赤いジャケットと旅行用のブルーのジャケットやトレーニングシャツの支給があり、海外渡航の手続き等もありました。こういったことを経験した人は、その後の人生に大きな違いがあると私は思うのです。

1964 年の東京オリンピックは開催国枠で出場しました。ミュンヘンオリンピックは、東京で予選が開催され出場しました。モントリオールオリンピックの（アジア）予選はタイのバンコク（アウエー）で行われました。今日集まった選手たちは、さまざまな環境が異なる中、海外での予選を勝ち抜いてオリンピックに出たという点で、非常に大きな価値と経験を持っています。タイ国は当時、日本に対してあまりいい印象を持っていませんでしたが、その中でチームは最大のライバルである韓国を倒してオリンピックの出場権を手にしたのです。

1964 年の東京大会で監督を務めた吉井四郎さんは「国際大会では、同じ動きができるなら大きな選手を起用すべき」というセオリーをお持ちでした。最長身が 185 c m 程度だった 1960 年のローマ大会から一転して、小玉晃、角田勝次、藤江精二など 2 メートル近い大型選手を起用し 16 チーム中 10 位という好成績を残しました。モントリオールは、吉井さんの後を継いだ私も大型化を踏襲し、小玉と角田にかわる大型選手として、斎藤文夫、北原憲彦、沼田宏文を戦力化させることに力を注ぎました。

私はさらに、次の段階での大型化を目指しました。当時の日本は 170 c m 台の 2 人のガードでプレーするのが通例で、当初は阿部（リードガード）と藤本（バックアップガード）という小さいサイズの 2 ガードの起用を考えていたのですが、韓国のシューターに対して、藤本では身長差があり、どうすれば相手のシュートを止められるだろうかと考え、桑田と千種という 190 センチ台の選手をガードに育てマッチアップさせるしかないと思うようになったのです。

千種は住友金属のフォワード、桑田は慶応義塾大のセンターで、ガードの経験はまったくありませんでしたから、とにかく練習を重ねて慣れさせるしかありません。そのために私は 5 月から 10 月までの間に約 150 日の合宿を組み、ひたすら基礎練習の反復を行いました。

キャンプは基本的に 10 日の合宿と数日のオフを 15 回繰り返すような形で行われました。その中で私は常に 100% 以上のことを要求してきました。それこそ、選手たちに殺されるかもしれないと思うくらい厳しく指導しました。大型化は大変リスクの高い試みではありましたが、これを練習量と、長い合宿の中で生まれた濃い絆で乗り越えていったのです。あれだけの猛練習でしたから、選手たちは、合宿が終わったらすぐに自宅に帰ると思われるかもしれませんが、しかし、彼らは最終日に練習が終わって風呂に入ると、私が「早く帰れよ」と言ってもなかなか帰らないのですよ。つらい練習を乗り越えた余韻に仲間たちと語らいながら浸っていたのでしょうね。仲がよいものだと思いましたし、そういった絆の中で海外予選を勝ち抜いたのはモントリオールのメンバーの誇らしい特徴です。

当時と比べて、今の日本代表合宿は、リーグの合間に数日ずつ行われているようですが、熟練化する事は難しく不十分と思われます。

【阿部】



我々は大半がサラリーマンでしたが、1年の半分が合宿で、半年間は会社にも出なければチーム（企業）の練習にもいないわけです。私はミュンヘンの代表にも入っていたので8年間そういった生活をしていました。代表活動とチーム活動、どちらが自分の本体になるかというところやっぱり代表の絆のほうが強くなるのですよ。練習も企業よりも断然多かったですし、共に過ごす時間も長い。強い絆の中で自然と助け合いが出てきたと思います。我々のような小さな選手は大きな選手たちをいかに苦しめて、彼らを成長させるかを考えて練習していましたから。

【桑田】



合宿での練習は、まあ大変でした。なんせ普段練習する相手が阿部、吉川峰夫、川本昌治郎、山本、藤本という名ガードの諸先輩方。みなさん身長は170cm台で、190cmの私とは10cm以上差があるわけです。それで1対1ばかりやらされて冗談じゃないぞと思いました（笑）。それでも怒られながらやっていくうちに、1～2年位でようやく「ガードってこんなものなのかな」とつかめるようになりました。

一番の思い出はモントリオールに行く前の合宿でしょうか。インカレ（全日本学生選手権）と日程がかぶったのです。私はインカレを優先して合宿に行くつもりはなかったのですが、ご丁寧に僕らの試合を全部夜に回してくれたおかげで、午前中は全日本の合宿でガードの練習をして、夜はセンターで試合をするというむちゃくちゃなことをやっていた（笑）。

センターはゴールを背負ってプレーするけど、ガードは後ろに誰もいません。そういうプレーの質や差を如実に感じさせられたのもミュンヘンからモントリオールまでの時期でした。練習は非常にきつかったのですが、そういうのもみなさんとワーワー言いながら乗り越え、楽しくやれたと思います。韓国戦（オリンピックアジア予選）も、ものすごく印象に残っています。当時は千種さんの控えでしたけど、今考えても身の毛のよだつというか、ぐっとくるチームでした。

【千種】



10本先取の1対1というメニューがあって、ギブアップするか10本入れないとずっとプレーしなければいけないのです。桑田は1人で14人と1対1し続けて、相当いじめられていましたね（笑）。

【桑田】

大学を卒業し日本鋼管の2年目で本大会を迎えましたが、その間、本当に基礎しかやりませんでした。基礎というのは1対1のことです。ガードとして余裕を持ってまわりを見られず、自分のプレーで精いっぱいでした。ボールハンドリングのドリルをやったのも代表に来てから。当時はそういった技術がまったく教えられていなかったのです。今は全国にハンドリングが伝わったおかげで、子供たちはドリブルがうまいですね。

【千種】

バンコクの予選では大変なハプニングもありました。韓国との決勝戦の日、バンコク市内が大渋滞で、コートに到着したのが試合開始の10分前くらいだったのです。

【吉田】

バスでこのまま乗っていては間に合わないということで、降りてみんなで走ったものです（笑）。

【千種】

3分前のブザーの前によろしくベンチに到着できて、ゲームが成立したのです。そんなハプニングの中で熾烈な戦いをして勝ち取ったというのは全員の記憶にあるんじゃないでしょうか。

あの試合は開始後3～5分くらいですぐに10点近くリードされて、そのままなかなか点差が詰められない展開でした。そこから合宿で1年中繰り返しやっていた、私がプレッシャーをかけて阿部さんがボールを奪うというオールコートプレスで追い上げ、前半で同点まで追いつきました。阿部さんのランニングシュートが劇的な決勝点になって、106－102で勝ちました。

【阿部】

あの試合、私は大変なミスをしたのです。大量リードされたことが悔しくて冷静になれない中、スローインで韓国の選手にパスしてしまった（笑）。ベンチに下げられた事で落着いて、ここで勝たないとオリンピックには行けないという気持ちが出て、最後のシュートを決めることができました。私のバスケット人生の中で、あの韓国戦が一番のゲームでした。

【吉田】

韓国はシン・ドンパというすごいシューターがいました。どうやったら彼のシュートを止められるだろうかと考えて、千種をぶつけてシュート率を下げました。確か残り5、6分でガタッとシュート力が落ちたと記憶していますが、これは間違いなくディフェンス力の差でした。

【千種】

シン・ドンパはノーマークにすると本当によく入りましたね。1対1では負けない自信がありましたので。最初は苦戦したけどダメージをどんどん与えて、結局20点以内に抑えたと思います。韓国にとっては相当打撃だったと思いますよ。

【吉田】

もう1人、エースがいましたね。彼も千種と桑田が交代で守ったので、最後はガタガタでシュートが入らなかったです。

【千種】

韓国に勝てたのは、クロさん（吉田氏）が信念を持ってコーチングしてくれたから。日本が勝つには何かの武器がなければならない、それはプレスディフェンスだということで

本当に繰り返し練習しました。選手たちには「毎回毎回同じことをやって大丈夫か？」という疑問もあったけど、吉田さんは妥協せずにやり続けた。それは吉井先生や東京五輪の技術顧問だったピートさんの遺伝子がクロさんにもつながっていたからでしょう。だから我々も次第に、「これで行けるだろう」と思えるようになったのです。

【阿部】

そういうことだと思いますよ。吉田さんはモンテリオールまでの4年間だけでなく、ミュンヘンの4年を含め足掛け8年です。一朝一夕で出来るものではありません。

【吉田】

ピートさんはローマ大会で金メダルをとったアメリカ代表の監督でした。東京オリンピックを迎えるにあたって、ローマ後、真っ先に彼にアプローチした当時の日本バスケットボール協会には素晴らしい先見の明がありました。彼はNBAサンフランシスコ・ウォリアーズ（現在のゴールデンステイト・ウォリアーズ）というチームのオーナーで、アメリカ西海岸のバスケットボールの中心にいる人間。そんな人と日本がコネクションを築けたのは非常に大きなことでした。

【千種】

ピートさんは人としても大変魅力的な方でした。先ほどお話しした10本先取の1対1で、桑田がコテンパンにやられているのを笑いながら見ているのですが、いい変化をしたときは顔を真っ赤にして「G o o d !」と褒めた。基本に対する愛情と言うのでしょうか。そういうことがよく記憶に残っています。

ピートさんとの思い出の中で、一つ残念なことがあります。モンテリオール五輪のカナダ戦で、ピートさんから「速攻のパスは絶対に両手でもらわないこと。片手で受けてすぐに落として、ドリブルするのだ」という教えを守れなかったことです。後半10点差まで追い上げて、逆転できるチャンスだったのに、私は速攻のボールを両手でキャッチして、トラベリングを取られてしまった。クロさんもがっかりしていましたね。

【吉田】

カナダ戦はバスケットボール競技の初戦でした。エリザベス女王がご臨席された試合で、反則を前半だけで26もとられました。ちょっと間合いを詰めたらもうファールです(笑)。

(次号、斎藤氏、結城氏のお話に続く)

世田谷区中学生初心者向けクリニック

[総務部・普及部]

去る7月28日(土)、東京世田谷学園の体育館で東京都世田谷区中体連バスケットボール部主催、振興会協力による中学生初心者向けクリニックが開催された。

当日は、男子は区内の10校から66名、女子は8校から32名の参加者を得て、当会会員の桑田健秀氏、元エバラヴィキーズの水澤春奈氏に講師を委嘱、約2時間にわたり、モチベーションアップを狙いとしたクリニックが実施された。振興会からは会員の宮崎和子さんと蒲田が参加した。

<桑田講師と水澤講師によるクリニックの概要>

I 桑田講師による講話

以下のような内容を生徒に向けて話してもらった。

- ・ 中学3年間、夢を持とう。
- ・ 指導者の話をよく聴く姿勢が大切。
- ・ 先生や保護者への感謝の気持ちを忘れずに。
- ・ 受け答えは声を出して（これも一つの技術）
- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて

特に障がいを持つパラリンピアン、あまり接触したことがないかもしれないが、交流を持ってほしい。多くは生死をさまようような世界を体験してきており、それを乗り越えるのに、どれほど苦勞してきたかにつき、思いを馳せてほしい。



桑田講師による座学

II 水澤講師による実践練習

- ・ 上肢、下肢の動きを組み合わせた形でのラン&ストップ（前進と後退）
- ・ 股関節ストレッチと周辺筋肉の強化



股関節ストレッチ



ラン&ストップ

- ・ ボール2個を使ったバランス歩行



バランス歩行準備



バランス歩行ドリル

- ・一人及び二人一組でのドリブルドリル

今回は、オフェンス・ディフェンスの基礎技術向上の要である股関節周辺のストレッチと筋力強化、体のバランス感覚と集中力向上を意識したドリルにかなりの時間を割いた。初心者にはやや難しい面もあったが、これからの日常練習に組み入れていくことを期待したい。



ドリブルドリル

Ⅲ 桑田・水澤両講師によるシュート練習

○シュート練習（フリースローレーンから）

- ・どういうフォーム、投げ方が一番シュートの確率が高くなるかを意識して練習すること。
- ・シュート上達にはボールの位置、つかみ方、足の使い方が大事。
具体的には、ボールを中心に腕と肩で正三角形を作るイメージ、手は親指と人差し指で「ハ」の字を作るイメージで、手のひらはボールにつけない、つま先はゴールに向けて膝は柔らかく、上半身は胸を張って少し前傾でつま先に重心を。そして足の力が正しく腕に伝わることを意識して少しずつ体で覚えてほしい。
- ・シュートはバスケットの醍醐味、正しいフォームを覚え、そして決めるつもりで打つこと。



講師によるシュートの模範演技



シュート練習

<あとがき>

今回は、夏休み期間中に実施の第二回目となる。

クリニックの後に30分程度、男女別にチーム分けしてお楽しみゲームも行ったが、1年生だけ、特に初心者だけで、ゲームをする機会はほとんどなく、加えて初対面の他の学校の生徒とチームを組むことは、初めての経験であった。最初は戸惑いも見られたが、最後には和気あいあいとプレーしている姿が印象的であった。

今回の開催に当たって、世田谷区中体連の専門委員である世田谷学園の古見先生には会場の手配、参加生徒の募集等々で大変お世話になった。また同学園の2年生15名には、お楽しみゲームの審判やTOをボランティアで担当してもらった。

東京海上日動バスケットボール部（ビッグブルー）から、桑本ヘッドコーチ、濱西、北代の両新人選手には休日にも拘わらず、ボランティアとしてお手伝い頂いた。誌面を借りて謝意を表したい。

また、今回も2校から3名の顧問の先生に付き添い頂き、保護者8名の皆様にご見学頂いた。併せて謝意を表したい。

（文責 蒲田 尚史）

先人の軌跡 薬師寺尊正

[普及部]

日本で初めてのバスケットボール及びバレーボールでの選手の一人であり、日本スポーツ界の大恩人。日本バレーボール協会の顧問、大日本体育協会総務主事・評議員、日本体育協会会賓、目黒区法曹界会長など歴任。人権派の弁護士としても活躍した薬師寺尊正（やくしじたかまさ）氏を紹介する。（以下敬称略）



1927年10月

薬師寺尊正：1893年（明治26年）5月17日生～1985年（昭和60年）12月8日没 熊本県出身

（注：薬師寺は、1923年（大正12年）「加藤」から「薬師寺」に改姓したが、本稿では全て「薬師寺」姓で記述した。）

薬師寺の日本のバスケットボール界で果たした功績には大きなものがある。

東京YMCAチームの選手としての活躍に加えて、東京帝国大学を卒業し、弁護士として岸清一法律事務所で勤務する傍ら、日本にバスケットボール組織のなかった時代にバスケットボール界を代表して「大日本体育協会」の理事など、要職を務めた。

戦前の大日本体育協会が発行した機関誌「アスレチクス」「オリंपイクス」にバスケットボール関連の多くの記事を投稿し、大正から昭和初期にわたり、日本のバスケットボール界を主導した。

また、薬師寺は、個人で「バスケットボール」というB5版のバスケットボールの機関誌を14号まで発刊したことなど、日本のバスケットボール界の将来も展望している。

戦後は、永く人権派弁護士として活動、目黒区の「名誉区民第2号」になっている。

以下に薬師寺が日本のバスケットボール界に残した功績を年譜としてまとめる。

1917年（大正6年）熊本県玉名中、五高を経て東京帝国大学法学部を卒業。

1917年（大正6年）11月：旧東京YMCA体育館（神田・美土代町）が竣工した。体育館の完成と同時に東京YMCAチームがF. H. ブラウンの指導の下に誕生した。

発足時の主力メンバーは、佐橋、平沢、志賀、神田、薬師寺など。

1921年（大正10年）～1923年（大正12年）極東選手権大会に、日本代表の東京YMCAバスケットボールチーム主将として出場。第1回から第3回全日本総合バスケットボール選手権に3連覇した東京YMCAチームの主将。

1922年（大正11年）大日本体育協会機関誌「アスレチックス」が発刊され、第1巻第12号に、薬師寺は「バスケットボールとヴァレーボール」という主題で投稿。

以後、第8巻第5号まで17稿のバスケットボール関連記事を投稿し掲載されている。バスケットボール競技の技術、大会の解説、座談会の進行、日本バスケットボール界の将来展望など多岐にわたる主題で投稿している。

1923年（大正12年）5月：第6回極東選手権が大阪で開催。

日本代表は、東京YMCAチーム。また、6月：第1回全国バスケットボール大会（後

援報知新聞社）東京YMCAが主催。9月：関東大震災が発生し、旧東京YMCAの建物も焼失した。体育館の焼失により活動場所を失った東京YMCAチームも解散に至る。薬師寺は、大日本体育協会の主事に就任する。

1925年（大正15年）10月：薬師寺は大日本体育協会体育主事、評議員に就任。

1927年（昭和2年）10月：大日本排球協会設立、薬師寺は理事に就任。

1929年（昭和4年）薬師寺は大日本体育協会名誉主事に就任。

1930年（昭和5年）薬師寺はバスケットボール機関誌を発行。

「バスケットボール」（発行人薬師寺尊正）を創刊から14号まで一冊単価50銭で販売。創刊号「発刊に就て」の中で籠球人の解かねばならない宿題として

- ① 機関誌の発行
- ② 完備した「室内籠球場」の建設
- ③ 全日本統一的籠球団体の組織化

この3項目が日本のバスケット界の大きな宿題であると主張し、前記の目的を実現するためにも比較的容易である籠球専門の月刊誌を自費で発行した。薬師寺は、YMCA主導のバスケット界の組織化を考えていたが、1930年に、大学生を主体にした大日本バスケットボール協会が設立され、薬師寺の思い通りにはいかなかった。薬師寺は、徐々にバスケット界での立場を失い、その結果、第9回極東選手権大会の終了後に極東選手権大会の名誉主事を退任。大日本体育協会の事務所が丸の内に移転したころ、薬師寺は大日本体育協会の名誉主事も辞任した。

この年、大日本バスケットボール協会が発足。

1969年（昭和44年）勲四等瑞宝章を受章

1983年（昭和58年）目黒区「名誉区民」弁護士、人権擁護委員。

昭和27年人権擁護委員に就任。人権思想の普及を図るとともに、弱者の救済、人権の擁護に努めた。また、目黒区法曹会の一員として法律相談を率先して担当し、区民の抱える切実な相談に応じたほか、豊かな経験と卓越した識見を生かし、目黒区の各種審議会委員を務め、区制の発展に貢献した。

関東大震災で旧東京YMCAの建物が焼失し東京YMCAチームは、活動の場を失った。

当時、東京YMCAの体育館でバスケットボールを練習し育った大学生を主体に大日本バスケットボール協会が創設されたことにより、東京YMCAの時代が終わり、同時に薬師寺も日本バスケットボールの舞台の第一線から身を引いた。

「薬師寺尊正」は、協会設立以前に果たした功績が大きく、日本バスケットボール界にとって忘れてはいけない人物である。



大日本体育協会事務所にて（1929年頃）
薬師寺（右端）

<参考>

- ・「バスケットボール」発行人 薬師寺尊正
- ・大日本体育協会機関誌「アスレックス」
- ・日本体育協会 50年史 財団法人 日本体育協会（本文の写真提供元）
- ・日本体育協会 75年史 財団法人 日本体育協会



アジアのバスケット好きな仲間たち

その2：第14回アジア日本人バスケット“広州大会”

鈴木 承二

バスケットボールプラザ 77 号に続き、アジアでバスケットボール競技に熱中し活躍する方々の情報を皆様に順次お届けしたい。

今回は、「ASIA CUP 2018」第14回アジア日本人バスケット“広州大会”についてバンコックの加藤真輝氏に報告をいただいたので紹介する。

第14回アジア日本人バスケット“広州大会”を振り返って

バンコックチーム (NKPJ) 主将 加藤真輝

バスケットボールプラザ第77号(2018年3月)で紹介されたバンコックで開催の2017年“アジアシニア大会”の基となった、アジア各地に駐在しているバスケット好きメンバーが集う日本人バスケット大会(通称:Asia-Cup)が、中国の広州で5月19日に開催された。

本大会は今年で14回目となり、男子は台北、シンガポール、クアラルンプール、ハノイ、ホーチミン、マニラ、インド、バンコック、香港、広州、深セン、蘇州、及び上海の13チーム、女子はクアラルンプール、シンガポール、広州、蘇州、香港、及びハノイとインドの合同で6チームが参戦した。

男子は、昨年の覇者バンコックが6位に、常勝チームの上海、香港が振るわず、昨年惜



バンコックチーム

しくも第二位だった台北が悲願の優勝、その他の順位も激戦で、予測が大幅に狂う大会になった。経済の動向と現地化を進める日本企業の動向で駐在(赴任)の変動が激しく、順位が読めないのも一つの要素でもあるが、各チームが“Asia-Cup”をめざし、アセアンカップ、チャイナカップ等で練習に熱が入っているのも事実である。

しくも第二位だった台北が悲願の優勝、その他の順位も激戦で、予測が大幅に狂う大会になった。経済の動向と現地化を進める日本企業の動向で駐在(赴任)の変動が激



ジャンプシュートを決める
バンコックチームの加納選手

会員だより



リング下での熱戦



懇親会の一コマ（右端が筆者加藤氏）

熱戦後 7時から開催された、表彰式、及び懇親会が“広州花園大飯店”（広州ガーデンホテル）で始まり 220 名の大宴会が盛大に行われた。その後、同窓、同郷、社会人の仲間等、それぞれが広州の街に流れて行った。

試合前日に宿泊先の広州ガーデンホテルで、大会スケジュール、組み合わせ、競技規則の打ち合わせが行われた。それと並行して毎回問題になる開催地は、試合会場とホテル、220 名余の確保が出来る都市で、治安の問題もある。会場は、移動の少ない所、もしくは 3～4 面のコートが確保できる所でなければならない。

その結果、来年の開催は、5月の予定で、都市をバンコックとすることになった。

“是非来年 5 月、再度皆様とお逢いできることを楽しみに致しております”





スポーツと障がいのある人達

— その2 —

上谷 富彦

前回プラザ77号で、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催にむかって障がいのある人達がいろいろな形でスポーツに取り組んでいる様子を多くのメディアが紹介しており、今、社会の関心が飛躍的に高まってきていることを述べました。

中でも知的障がい者の国際的スポーツ団体であるスペシャルオリンピックス（以下S Oと記す）の存在が注目を集めています。

障がい者スポーツの中でS Oの理念は、アスリート（S Oでは競技者をこう呼んでいます）が各種のオリンピックに準ずるスポーツに日常的に取り組み、トレーニングを重ねた成果の発表の場として4年に1度世界大会を開催することです。

重要なことは、大会でメダル獲得する競技志向ではなく、日常努力の成果を発揮する場と位置づけて、参加者は全員が表彰されます。

バスケットボール界では、5月26日（土）に横浜アリーナで開催されたBリーグ最終戦の会場でS O日本・東京のユニファイドチームがスペシャルゲームを披露しました。

これは、S O日本がBリーグの社会貢献活動（Bリーグホープ）とユニファイドスポーツを通じてインクルージョン社会の実現をめざし、パートナーシップを締結したことを記念するためのイベントであります。当日、Bリーグ大河チェアマンとS O日本三井会長による調印式も行われました。



© S O日本 提供 ユニファイドチームのゲーム

S O日本のHPによると、『知的障がいのある人の“ために”（For U）ではなく、ともに（With U）。「一緒ならなんだってできる」

という本イベントのメッセージを託された選手達はこの舞台でも物怖じせず、最後の一秒まで全力プレーを披露し、知的障がいのある人もない人も関係なく純粋にスポーツを楽しむ姿を見せつけてくれました！』と書いています。

最高の舞台でのゲームで、アスリートとパートナーは本イベントのメッセージを遺憾なく伝えていました。

そしてスポーツがもつ力を信じ、障がいの有無に関わらず多様性を尊重する社会を目指すS Oの活動理念を共有したBリーグは、バスケットボールを通じてインクルージョン社会の実現にむかって記念すべき第一歩を踏み出したのです。

会員だより

これに先だちＳＯ日本・東京主催で５月２０日に、ユニファイドバスケットボールフェスタ 2018 が国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれ、全国９地区から７３名のアスリートとパートナー４８人が参加して熱い戦いを繰り広げました。

はじめての試みでしたが「知的障がい者のために FOR - U ではなく一緒に WITH - U」という理念を大切にし、「一緒なら何でもできる」という貴重な体験をすることが出来ました。



Bリーグ葦原常務理事も熱心に観戦され挨拶ではバスケットボールを通じて障がいの有無にかかわらず互いを尊重する社会に貢献することを力強く宣言されました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして一緒なら何でもできる社会の構築にむかってBリーグとＳＯが進んでいくことを大切にしていきたいと思っています。



なお車椅子男子バスケットボールにも若い有力な選手の登場が報じられています。併せて応援していきたいと思っています。

〔ＳＯ日本・東京 地域展開委員会 委員長〕

Bリーグレギュラーシーズン開幕

[編集部]

開幕発表記者会見



今シーズンの特徴を説明する大河理事長（右）

Bリーグの2018～19シーズンは、テーマを「超」と決めて、去る9月24日、後樂園東京ドームホテルで開幕発表記者会見があった。

Bリーグチェアマンである大河正明理事長の挨拶があり、開幕が宣言された。

今シーズンの特徴として下記の新たな三つのチャレンジが提示された。開幕に先行してのイベントゲーム、B1リーグの平日開催日を3倍増、そして競技レギュレーションの改訂、である。

その後、琉球を除くB1リーグの15クラブから選手各1名が参加して、今シーズンのチームを表す漢字一文字が披露された。

第10節11月18日までのB1リーグ成績

得点が多ければよいというわけではないが、平均得点が80点を超えるクラブが18クラブ中4クラブのみで、60点台が1クラブある。40分の時間内で得点を争うバスケットボール競技では80点以上を目指す華麗なゲームを展開してほしい。サッカーや野球と大きく異なり、点を取り合うゲームの特徴を発揮すべきでなかろうか。

地区	順位	クラブ名	勝・敗	勝率	試合数	総得点	平均得点
東	1	栃木ブレックス	15-2	0.882	17	1440	84.7
	2	千葉ジェッツ	13-4	0.765	17	1394	82.0
	3	アルバルク東京	11-6	0.647	17	1228	72.2
	4	サンロッカーズ渋谷	6-11	0.353	17	1234	72.6
	5	秋田ノーザンハピネッツ	5-12	0.294	17	1208	71.1
	6	レバンガ北海道	4-13	0.235	17	1217	71.6
中	1	新潟アルビレックスBB	12-5	0.706	17	1346	79.2
	2	川崎ブレイブサンダース	11-6	0.647	17	1232	72.5
	3	シーホース三河	9-8	0.529	17	1308	76.9
	4	富山グラウジーズ	9-8	0.529	17	1430	84.1
	5	三遠ネオフェニックス	7-10	0.412	17	1224	72.0
	6	横浜ビー・コルセアーズ	4-13	0.235	17	1315	77.4
西	1	琉球ゴールデンキングス	12-5	0.706	17	1311	77.1
	2	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	12-5	0.706	17	1372	80.7
	3	京都ハンナリーズ	10-7	0.588	17	1295	76.2
	4	大阪エベッサ	6-11	0.353	17	1171	68.9
	5	滋賀レイクスターズ	4-13	0.235	17	1218	71.6
	6	ライジングゼファー福岡	3-14	0.176	17	1253	73.7

B. LEAGUE 提供

各クラブチームのシュート成功率

観客動員を図るためには、華麗なシュートを決めることに尽きはしないだろうか。

フリースローの成功率が低い。常々女子に比べて成功率が低いといわれているが、16クラブ中、半数の8クラブが70%を切っている。プロプレイヤーなのだから、最低でもチームで70%台は挙げてほしい。個人成功率の上位は80%を越えているのだから、各人の奮起による成功率の上昇を期待する。

地区	順位	クラブ名	FGM	FG%	3PM	3P%	FTM	FT%
東	1	栃木ブレックス	538	45.7	142	37.4	222	70.0
	2	千葉ジェッツ	525	48.8	144	38.9	200	66.0
	3	アルバルク東京	465	43.0	96	31.4	202	75.9
	4	サンロッカーズ渋谷	468	42.8	96	30.1	202	76.2
	5	秋田ノーザンハピネッツ	453	42.0	87	28.3	215	68.3
	6	レバンガ北海道	462	41.7	104	32.1	189	73.0
中	1	新潟アルビレックスBB	480	45.7	133	31.9	253	76.2
	2	川崎ブレイブサンダース	477	46.0	84	29.9	194	68.6
	3	シーホース三河	508	45.9	136	40.5	156	71.2
	4	富山グラウジーズ	528	49.4	98	36.2	276	74.2
	5	三遠ネオフェニックス	492	45.1	103	33.2	137	66.8
	6	横浜ビー・コルセアーズ	512	43.1	115	33.1	176	66.9
西	1	琉球ゴールデンキングス	494	46.2	138	36.7	185	78.1
	2	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	493	46.1	170	39.9	216	68.6
	3	京都ハンナリーズ	476	45.2	130	32.8	213	74.0
	4	大阪エベッサ	444	41.7	109	30.4	174	64.0
	5	滋賀レイクスターズ	483	43.5	99	30.7	153	70.8
	6	ライジングゼファーフ岡	478	46.3	102	34.9	195	68.4

FGM: フィールドゴール成功数 FG%: フィールドゴール成功率 3PM: 3ポイントシュート成功数

3P%: 3ポイントシュート成功率 FTM: フリースロー成功数 FT%: フリースロー成功率

3ポイントシュートの個人成功率トップスリー（シュート成功数90本以上）

1位	49.1%	#27	石井 講祐	千葉ジェッツ
2位	47.8%	#9	安藤 周人	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
3位	46.8%	#14	金丸 晃輔	シーホース三河

フリースローの個人成功率トップスリー（シュート成功数60本以上）

1位	100%	#7	阿部 友和	富山グラウジーズ
2位	89.2%	#14	辻 直人	川崎ブレイブサンダース
3位	87.0%	#12	岡田 優介	京都ハンナリーズ

Wリーグ創立20周年を迎えシーズン開幕

[編集部]

創立20周年を迎えシーズン開幕



20周年記念をペイントした試合球

創立20周年を迎えたWリーグ2018～2019シーズンは10月19日の富士通VS東京羽田で開幕した。レギュラーシーズンは12チームによる2回戦総当たりで戦って順位を決めた後、上位8チームのプレーオフにより優勝を決める。JX-Eneosが史上初の11連覇を達成するか、どのチームが連覇を阻止するか、楽しいシーズンが始まった。なお、今シーズンの試合より2018FIBA新ルールが適用される。記録達成事前情報が10月18日Wリーグより発表された。詳細は下記を参照願いたい。

2018～19シーズンにて達成が期待される主な記録

○高田 真希（デンソー）

あと18試合で、通算出場**300試合**達成

あと228得点で、通算**5,500得点**達成

あと145リバウンドで通算**3,000リバウンド**達成

○渡嘉敷 来夢（JX-Eneos）

あと270得点で、通算**4,500得点**達成

あと97リバウンドで通算**2,500リバウンド**達成

○長部 沙梨（トヨタ紡織）

あと21得点で、通算**3,000得点**達成

○王 新朝喜（三菱電機）

あと160得点で、通算**3,000得点**達成

あと1リバウンドで通算**2,000リバウンド**達成

○町田 瑠唯（富士通）

あと269アシストで通算**1,500アシスト**達成

11月18日までのWリーグ成績

JX-NENOSが下位5チームとの対戦とはいえ全勝(10勝, 100点ゲームが3試合)で首位を走っている。どのチームが土をつけるか興味深い。2位は8勝2敗の三菱電機、3位は7勝3敗のトヨタ自動車が続いている。

下位2チームは0勝10敗で5試合が100失点以上でディフェンス力の向上が急務。(山梨: 4試合、新潟: 1試合)

順位	チーム名	勝・敗	勝率	平均得点	平均失点	FG%	OPP FG%	3PPG
1	JX-NENOS	10-0	1.00	89.70	55.80	48.82	36.35	8.40
2	三菱電機	8-2	0.80	78.50	63.60	46.49	37.58	7.30
3	トヨタ自動車	7-3	0.70	76.40	63.30	41.70	36.12	8.30
4	富士通	6-4	0.60	73.00	66.70	42.51	40.35	8.50
5	トヨタ紡織	6-4	0.60	65.10	59.50	38.06	39.11	6.70
6	デンソー	6-4	0.60	73.10	69.70	41.73	39.69	5.80
7	シャンソン化粧品	5-5	0.50	76.90	75.80	45.14	43.06	5.60
8	日立ハイテク	4-6	0.40	66.10	71.90	41.36	40.75	7.10
9	東京羽田	4-6	0.40	73.30	81.70	43.12	46.52	5.60
10	アイシン・エイ・ダブリュ	4-6	0.40	63.20	71.30	38.79	39.63	6.00
11	山梨	0-10	0.00	70.50	95.90	37.18	51.01	7.20
12	新潟	0-10	0.00	49.50	80.10	32.37	45.55	5.00

●FG% (フィールドゴール成功率) ●OPP FG% (対戦相手フィールドゴール成功率) ●3PPG (3Pチーム平均本数)

順位	チーム名	勝・敗	RPG	APG	SPG	BPG	TPG	GA
1	JX-NENOS	10-0	46.90	23.30	10.40	5.20	13.00	1.61
2	三菱電機	8-2	42.20	20.90	8.40	4.60	13.00	1.23
3	トヨタ自動車	7-3	44.00	16.20	7.00	2.60	13.30	1.21
4	富士通	6-4	37.90	16.50	8.00	2.20	12.70	1.09
5	トヨタ紡織	6-4	38.50	14.30	8.50	3.20	10.00	1.09
6	デンソー	6-4	40.20	17.40	7.30	4.80	13.30	1.05
7	シャンソン化粧品	5-5	36.40	17.70	10.10	1.70	14.00	1.01
8	日立ハイテク	4-6	33.80	12.40	6.30	3.30	13.80	0.92
9	東京羽田	4-6	37.00	16.70	8.90	3.20	15.70	0.90
10	アイシン・エイ・ダブリュ	4-6	38.10	13.20	6.70	5.50	15.10	0.89
11	山梨	0-10	36.60	17.20	8.80	1.20	17.40	0.74
12	新潟	0-10	32.60	11.60	7.20	1.60	18.40	0.62

WBJL 提供

●RPG (リバウンドチーム平均数) ●APG (アシストチーム平均数) ●SPG (スチール平均)
●BPG (ブロック平均数) ●TPG (ターンオーバー平均数) ●GA (ゴールアベレージ)

事務局だより

[総務部]

◇ 会費納入のお願い

今年度会費の納入をお願いしておりますが、まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇ 第12回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI の日程が決定

来年（2019）7月4日（木）、5日（金）の2日間で、本年同様、国立オリンピック記念青少年総合センター内の体育館を使用して開催。詳細は、改めて案内の予定です。

◇ 国際バスケットボール連盟 事務総長パトリック・バウマン氏 逝去（享年51）

FIBAが、突然の心臓発作のためユース五輪開催地で亡くなったと発表。
バウマン氏は、日本協会改革の際、ガバナンスの立て直しを全面的に支援、Bリーグの創設に寄与頂くと共に、FIBA首脳と日本協会との信頼関係を厚いものとした日本のバスケットボール界の恩人ともいうべき方です。

◇ 「熱中症予防声かけプロジェクト」の「ひと涼みアワード2018」に出席

去る10月25日、環境省が後援する「熱中症予防声かけプロジェクト」の「ひと涼みアワード2018」に出席しました。全国の賛同会員数（7218団体）が参加し、振興会もその一会員です。今年の夏も非常に暑い日が続き、このプロジェクトの活動の活発になることが必要と痛切に感じられます。

◇ 都道府県協会の皆様に機関誌発行費用一部ご負担のお願い

先般来、都道府県協会の皆様に機関誌「バスケットボールプラザ」の発行費用一部ご負担をお願いしており、既に数県の協会からご協力、ご負担していただいています。引き続き、下記内容にて発行費用の一部ご負担をお願い申し上げます。
発行費用 一部ご負担 年額 2000 円（年4回分）
ご了承の節には、上記取引金融機関にお振り込みをお願い申し上げます。

プラザ こぼればなし

- ◇ ワールドカップ二次予選第4ウィンドウに参加の渡辺雄太選手及び八村塁選手が、以後の第5ウィンドウ（11月30日・12月3日）・第6ウィンドウ（2月21日・24日）へ参加することは無理といわれている。NBAのレギュラーシーズンは10月から翌年4月までであり、アメリカ大学では11月6日からシーズンが始まった。在米する強力なこの二人の日本代表参加は、日本のワールドカップ本戦への出場、さらに、東京オリンピック出場への大きな鍵となる。二人は、現状でNBAを目指すためには、自分の所属チームで頑張って実績を上げるしかない。日本代表への参加は強制できないであろう。男子日本代表チームには残る在日メンバーの奮起を期待したい。
- ◇ 八村塁選手が学ぶゴンザガ大学は、ワシントン州スポケーンに在り、上智大学と交換留学の提携をしているカトリック系の私立大学である。去る2013年8月発行のプラザ No. 59 における表題『昭和初期「明治大学籠球部のアメリカ遠征」—その2—』のP19の日程に、ゴンザガ大学が記載されている。これによれば、アメリカ遠征の1933年1月10日に明治大学はゴンザガ大学と対戦し、34-50で敗退している。ゴンザガ大学には、日本の大学と永いお付き合いのあったことが窺える。
- ◇ 渡辺雄太選手は、サウスウェスト地区テネシー州メンフィスを本拠地とするNBAのグリズリーズとツーウェイ契約を結び、10月12日までのオープン戦で活躍して、2018~2019シーズンの開幕出場登録選手17人の一人に選ばれた。シーズンは10月16日（現地時間）に開幕。渡辺選手は、初期にはベンチ入りできなかったが、第5試合、ホームでのサンズ戦で終盤残り約3分半に出場してフリースロー2本とリバウンド2個を記録した。NBAデビューは栃木の田臥勇太選手以来2人目となる。その後、渡辺選手は10月30日にベンチ入りメンバーから外れたが、皆様、渡辺選手の今後の多数回のNBA出場と活躍を祈り、盛大に応援しましょう。
- ◇ 公益財団法人笹川スポーツ財団から、子供が日常的に行っている運動種目について、昨年6月~7月、約2,900人に対する調査結果が発表されている。
4~11才では「おにごっこ」が47.3%で最も多いが、12~21才になると「バスケットボール」が21.9%と一番多く、次いで「ジョギング・ランニング」が20.7%、続いて「サッカー」が20.4%という結果であった。今後も、このような状態が永く続くことを期待したい。
- ◇ 去る9月21日、JBAからFIBAの新ルールに対応する変更発表があり、その中でP（ピリオド）からQ（クォーター）に用語が変更され、今後のJBA主催の大会、および今シーズンのトップリーグから適用されることとなった。これに伴い、本誌では11月号 No. 80 から、該当する用語を新ルールに合わせて変更する。

誤り訂正

No. 79 2018 年 8 月号の記述に誤りがございました。

関連する方々にご迷惑をおかけし、失礼がありましたこと、深くお詫び申し上げますと共に、下記のとおり正誤表を掲載いたします。

訂正箇所	正 誤 表	
2 1 ページ 3 行目	正	1883年（明治 1 6 年） 1 月 7 日～1969年（昭和 4 4 年） 2 月 2 2 日
	誤	1883年（明治 1 6 年） 1 月 7 日生まれ～1969年（昭和 4 4 年）
2 2 ページ 最終行	正	大橋季彦
	誤	大橋季吉
3 2 ページ 1 行目	正	愛知県、男子は名古屋市・一宮市、女子は名古屋市・小牧市
	誤	愛知県岡崎市
3 9 ページ 専務理事	正	田中道博
	誤	田中達博

N P O 法人

日本バスケットボール振興会

〒 1 0 1－0 0 5 1

東京都千代田区神田神保町 1－4 0

豊明ビル 3 0 1 号室

電話／F A X （03） 3219－9311

メール sinkokai@jbbs.jp
